

【書評】

原田智仁著『“世界史を舞台”に歴史授業をつくる
—嫌われても世界史はやめない！—』

(明治図書, 2008年) 1960円

金子邦秀
(同志社大学)

本書は、元高校世界史教師にして現兵庫教育大学大学院教授、先頃までは文科省の「世界史」教科調査官を兼任していた世界史の牽引者原田氏の『社会科教育』連載記事2年分のまとめである。

そのセンセーショナルなサブタイトルにも関わらず、本書は、原田歴史教育学の主張を簡潔に伝えるものになっている。

本書の構成は以下の通りである。

はじめに—世界史は嫌われている

第一部 日本史と世界史のインターフェイス

垣根を超える—クロスオーバーの時代の
歴史授業とは？—

- 一 宇宙から歴史を見る
- 二 世界標準で歴史を見る
- 三 欧米の視点から日本の歴史を見る
- 四 アジアの視点から日本の歴史を見る
- 五 海からの視点で日本の歴史を見る
- 六 南北軸から日本の歴史を見る(1)
- 七 南北軸から日本の歴史を見る(2)
- 八 日本史と世界史の共時性をさぐる
- 九 日本史から世界史を見る
- 十 身近な地域に世界史を見る
- 十一 日常生活に世界史を見る
- 十二 自分の身体に世界史を見る

第二部 世界史の<ことば>を読み解く

世界史リテラシー—グローバル化時代の
歴史授業とは？—

- 一 古代オリエント (以下サブタイトル省略)
- 二 古代中国
- 三 古代インド
- 四 地中海世界(1)古代ギリシア
- 五 地中海世界(2)古代ローマ
- 六 イスラーム世界
- 七 中世ヨーロッパ世界

- 八 近世のアジア
 - 九 近世のヨーロッパ
 - 十 「長い一九世紀」のヨーロッパ
 - 十一 アメリカ世界
 - 十二 二〇世紀の世界
- おわりに—世界史は、やめない！—

本書は目次から明らかなように大きく2つの内容から構成され、それぞれにおいて原田氏の主張が事例を交え、明確かつ簡潔に論じられている。

論点の第1は、小／中学校で世界を舞台に日本史や世界史の枠を取り払った「歴史」を教えるべきであるということである。一から十二までの各章のタイトルは、その「垣根を超える」視点を提示している。そして、各章とも、その視点と意義、その結果見えてくる関連性、ときに詳細な事例、また汎用性のある用語採用の主張からなる。

論点の第2は、中学／高校での「世界史」を読み解くのに不可欠な世界史リテラシーが取り上げられる。難解な資料にかわり、氏が、世界史に不可欠なりテラシーとしてあげるのは世界史の<ことば>である。一から十二までの各章のタイトルは、各タイトルが古代から現代までの時代と地域を、サブタイトル(省略)が各位時代の特徴・意義・意味にせまる<ことば>となっている。一次資料的なくことば>から第二次、第三次資料的なくことば>が取り上げられ、検討される。全体が「世界史」の素材事例集となっている。

これら2点は、氏のいう「歴史教育の伝統」を打破し、歴史学ですすむ歴史研究の進展を背景に、歴史授業内容の革新をはかる主張となっている。

「嫌われても世界史はやめない！」どころか「歴史って面白くてやめられない！」と私には読めた。